

はじめに、
高校3年間は松田先生には、大変お世話になり、亡くなられたことは大変残念です。
卒業後は、ほとんどお会いすることはなかったのですが、現役時代には、いろいろな練習方法を教えてくれたことを思い出します。
安らかにお眠りください。

以前にもお話したが、私の道楽・趣味は、サントラ（映画音楽）を聴くのを楽しむことである。

今年は、コロナウィルスの流行で家にいることが多くなり、サントラを聴く時間が増えたので、昔買ったレコードの手入れを始めたのだが、傷はないのだがカビが出ている盤がかなりあり、手入れに時間がかかっている。約1万枚のサントラレコードとCDを所有しているが、これらすべての盤が曲がらないように垂直に立てて保存しているが、これが結構大変である。24畳のリビングの1面の壁はレコードに占領されている。趣味も50年間続くと大変な量になり、家族からは、死ぬ前に整理しないとすべてごみとして処理すると脅かされている。

私の大好きな映画音楽の作曲家は、米国のジェリー・ゴールドスミスである。1929年生まれのは、亡くなる2004年までに、数百の作品を手掛けている。亡くなってから今年で16年になるが沢山の彼の作品が発売されている。好きな彼の作品は、年齢とともに変化してきているが、現在は1967年に公開された西部劇「墓石と決闘」のメインテーマと1984年に公開されたSF映画「スーパー・ガール」のメインテーマである。どちらも朝起きた時に聴くと一日が元気で過ごせる。彼の多くの作品には、彼特有のジェリー節とも言える旋律があり、私には、それが最高なのである。1976年の大作ホラー映画「オーメン」でオスカーを受賞したが、死ぬまでに他のジャンルでもオスカーを受賞してほしかった。彼を知らない人のために、有名な彼の作品を上げると、野のユリ、いつか見た青い空、電撃プリントシリーズ、トラ・トラ・トラ、猿の惑星、スター・トレック、パピヨン、チャイナタウン、ポルターガイスト、ランボー、グレムリン、トゥルーナイトなど、あらゆるジャンルを得意としている。これからも、彼の作品がレコードやCDで沢山発売されることを願っている。映画音楽は、メインテーマやエンドテーマ以外に映画の中で使用される沢山の曲があるが、その中でも素晴らしい曲が沢山あるが、それはまた別の機会にお話しよう。

さて、日本映画音楽の作曲家といえば、わが校の、川井憲次氏であるが、高校時代私は彼とは同学年で同じクラスにもなったことがある。しかし作曲家川井憲次が同級生の彼だと知ったのは最近である。作曲家川井憲次は、彼の初期の仕事の一つ、1987年に行った米国TVの音楽のカバー盤「エア・ウルフ/ナイトライダー」の編曲があるがとても良い出来で、日本で作られたこのカバーサントラのレコード、CDどちらも今でも好きな一枚である。勿論彼は、その後今に至るまでに、自らの作曲の作品を沢山手掛けている。赤い眼鏡、リング、おろち、GANTZ、貞子3D、The Next Generation パトレイバーや多くのTV作品等がある。

作曲家川井憲次氏とは、一度お会いしてサントラの考え方については是非お聞きしたいと願っているのだがなかなか実現しない。しかしこれだけは、近いうちに実現したいと強く願っている。

もっとお話ししたいところなのだが、この続きは、また機会があれば、お話しよう。
映画音楽よ永遠に！